

[ P R ]



## 高度な技術を分かりやすく伝える技術

### 「伝える・伝わる力」で寿都町に根を下ろす

NUMO（原子力発電環境整備機構）は、原子力発電の使用済燃料をリサイクルする過程で発生する高レベル放射性廃棄物の最終処分を行う組織。NUMOでは北海道の寿都町と神恵内村、佐賀県の玄海町で文献調査を進めており、北海道の二町村においては、2024年2月に国の審議会に提出した文献調査の結果を取りまとめた報告書の審議が8月1日に終了し、現在、法律に定める公表や説明会の実施に向けた準備が進められている。このような状況の中、今回はNUMOの地域交流部 寿都交流センターの愛智滉大さんに話を聞いた。

入構7年目、中堅に差し掛かろうとしている愛智さん。多くの人に愛されるであろう温かな笑顔を浮かべ「僕は人に恵まれていると思います。入構して色々と指導してくれた先輩たち、僕の後に入構してきた後輩。そして今は寿都町の人たち。皆さまに温かく接してもらっているからこそ、今もしっかり仕事に打ち込めています」と話す。

福岡出身、縁もゆかりも無い北海道に来て1年が経過している。愛智さんから見るNUMOの寿都町での取り組み、寿都町での日々、四季を通して感じた寿都町の魅力を聞いた。

## 「使命感」でNUMOへ

幼少期には九州電力のPR館に足を運ぶなど、電力をはじめとするエネルギー関連に興味を持っていた。大きな設備を前にすると訳もなくワクワクするのは多くの子どもたちの共通の特徴だ。

そんなワクワク感を持ち続けていたのか、愛智さんは工学系の進路を選択することになる。

「大学では材料工学を専攻しました。あまり馴染みがないと思いますが、細かく配合割合を変えた銅の合金を作って最も硬くなるのはこういう配合だとか、伝導性が良くなる等、さまざまな材料の特性を研究する分野でした。どんな業種でも材料が必要だから、幅広く通用するかなと思ったんですよね」

本人も周囲もそのまま工学系の道に進むのかと思っていたが出会いは突然だった。

「大学は長崎市内内だったのですが、就活が始まる時期にNUMOが全国各地で行っている説明会が開催されたんです。たまたまそこに行ってNUMOの事業の説明や、今後目指しているものを聞いたとき、これは誰かがやらなければならないと直感し、すぐに『これは自分がやるんだ』という使命感のようなものが降りてきました。」

結局、「使命感」を抱いた愛智さんは、就活ではNUMOに入構することしか眼中になかった。

## 挑戦していた「伝える・伝わる力」

工学系学科を卒業した愛智さんだが、エンジニアの道を歩んだわけではなかった。

「大学生時代から感じていたことがありまして、僕は工学系の学部でしたが、考え方やイメージを伝えるには専門用語では伝わらないんですよね。だから、難しい技術を柔らかく噛みくだいて説明するということがとても重要なことだと思っていました」

複雑なことを分かりやすく伝えることは愛智さん自身も挑戦していたことだった。愛智さんの考え方は、NUMOが長年にわたって実践し続けている『正しく伝える・伝わる』と合致し、愛智さんはNUMO広報部に配属となる。

最初に配属されたのは広報部内のイベントチーム。地層処分について興味を持っていただけるよう、地下深くの地層の特性や地表から300メートル以上深い場所に造られる処分場のイメージを迫力ある映像や展示によって学ぶことができる「ジオ・ラボ号」という地層処分展示車などを用いて、全国各地での様々なイベントに出展している。

「イベントに来るのは家族連れや子どものグループが中心でした。子どもに説明するときは興味を持ってもらえるように実験を行ったりと、とにかく面白く飽きさせないように話をしました。そのご両親に説明をするときはしっかり丁寧なことを心がけましたね」

子どもたちへの実験で使用したのは、地層処分の際に人工バリアとして使用されている「ベントナイト」。水に触れると膨張して水を通しにくくする素材で放射性物質を吸着させる性質もある。一般的には猫砂（ペットのトイレ）にも使われている。実際にベントナイトに水を注いで水が通りにくい様子を見せることで子どもたちの興味と関心を引き出した。

「興味津々の顔で『くっついた！』って大喜びするんですよね。僕自身も楽しくなる実験でした」



イベントチーム時代に培ったベントナイト実験を披露する愛智さん



水に触れると膨らんで水を通しにくくなる様子がわかる

## 様々な経験から培ってきた「伝わる」力を活かして 「伝わる」ことを追求する

イベントチームで2年勤務した愛智さんは、次に不特定多数の幅広い方々を広報の対象とするNUMOのホームページの運用や制作を手掛けることになる。

「NUMOのホームページであれ、イベント対応であれ『事実がしっかり伝わる』という本質は変わりません。しかし、相手の反応を見ながらお話するのと、ホームページに訪れた人が知りたい情報をお届けするというのは全然違いました」

イベントに来る人は基本的に興味を抱いているので、その興味にアプローチしていく。しかし、ホームページを訪れる人の多くは必要な情報を得ることを望んでいるため、ホームページに置く情報を整理し、且つどういう順序で閲覧しても興味を持てるようにする必要がある。

「ホームページの運用を2年、新聞広告やタイアップ番組など全国向けの広報で1年。さまざまな媒体を見て、試し、どうやったらしっかり伝わるかを常に考えてきました。発信する内容、媒体、タイミング、あらゆる要素を検討する必要がありますし、正解にたどり着いたとも思っていません。これからもずっと考え続けなければならないテーマだと思っています」

NUMOに入構して5年、愛智さんはさまざまなステージで「伝わる」ということを追求してきた。そして6年目に入ったとき、彼が選んだのは文献調査を実施している現場。

「伝える・伝わる」の最前線だった。

## 身近で気軽に立ち寄れる交流センターに

「寿都交流センターの地域住民の皆さまに事業をお伝えするという取り組みは知っていたので、当初から興味はありました。『知りたい』という熱が最も高いところだと思っていたので、自分のこれまでやってきたことが活かせるんじゃないかなと想像していました」

愛智さんの行動は早かった。

日常業務である寿都町民の皆さま向けの資料を作る傍ら、古巣である広報部と協働で、寿都交流センター2階を「交流室」として、町民の皆さまにギャラリーやコミュニケーションスペースとして使用していただけるように整備するとともに、フィンランドの地層処分場（オンカロ）や幌延町にある深地層研究センターを臨場感たっぷりに見ることができる「360度VR」を設置。加えて、地層処分に関する「ガラス固化体の模型」や最終処分場のジオラマを手配して設置するほか、さらに楽しみながら学べるペントナイト実験のキットや、多様な疑問に答えられる資料、さまざまなノベルティなども置いて、訪れる人が興味を持てるスペースをつくり上げた。

「寿都町や周辺地域の方で、ご希望があれば地層処分の研究を行っている幌延深地層研究センターや、高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターのある六ヶ所村の施設を見学することができます。僕は実際に自分の目で見たり体験したりすることが一番だと思っています。寿都交流センターの交流室は、『見たい、体験したい』という行動の入口になれば良いと考えています」

人は実際に見て、体験しなければ理解することは難しい。しかし、行動するためには何らかのモチベーションが必要だ。

愛智さんの取り組みは小さな興味を行動に移す後押しになる。さまざまな人と接し『伝わる』ことを続けてきた彼だからこそ、この「交流室」を完成させられたと思う。



コミュニケーションの場として椅子も設置



様々なノベルティも設置

## 寿都町に根を下ろす

寿都町に来て1年が経過した愛智さんに、改めて寿都町の良いところを聞いてみた。

「寿都町は『風の街』と呼ばれているくらい常に風が吹いていることで知られています。住んでみると本当にそうだなと思います。寿都町の夏は、九州出身で東京に暮らしてきた僕にとっては信じられないくらい爽やか。その分、冬の風は厳しいですが、雪と風がつくる芸術作品のような光景が見られるのも魅力ですね」

地域のお祭りのお手伝い、町内の花を植える活動、海岸清掃活動など。愛智さんは寿都町民のひとりとしてさまざまな活動に参加し、町民との関係を深めている。

最後に今後の目標を聞いた。

「まだ1年ですが本当に寿都町の暮らしが気に入っています。温かく迎え入れていただいた町民の皆さまにご恩を返すためにも、調査やNUMOの取り組みなどをしっかりお伝えするということをしていきたいと思っています。それが根を下ろすということだと信じています」

信念を話すときはキリッと真っ直ぐな目線となる。そこからすぐにいつもの温和な笑顔に戻る。この“メリハリ”が愛智さんの愛される理由なのだと思う。



原子力発電環境整備機構 (NUMO) <https://www.numo.or.jp/>

地層処分を分かりやすく紹介している動画はこちら

[https://www.numo.or.jp/chisoushobun/what\\_movie.html](https://www.numo.or.jp/chisoushobun/what_movie.html)

[愛智のおすすめ]

## 風光明媚な絶好のロケーションが楽しめる。

### 寿都町風力発電施設



寿都町のカントリーサインになっているのが、全国の自治体で初めて設置した町営の風力発電施設です。「風の街」である寿都町に吹く、「だし風」という強風を有効活用しています。13基の風車の真下は道路になっており、圧巻のロケーションで、ドライブやサイクリングにもってこいの場所となっています。

### 弁慶岬



奥州を逃れた義経一行がこの地に滞在した際に、弁慶が岬の先端で仲間の到着を待っていたという伝説から名付けられたのが弁慶岬です。美しい海を背景に、約5mの高さの弁慶の像が出迎えてくれます。夕陽の絶景スポットとしても有名です。

### 寿都浜中野営場



立ち並ぶ風車と、綺麗な寿都湾を一度に見ることができる最高のロケーションを誇るのが、寿都浜中野営場です。昼は気持ち良い風の中でキャンプを楽しみ、夜は美しい星空を眺める事ができます。ソロキャンパーである私も、リピートさせていただいています。